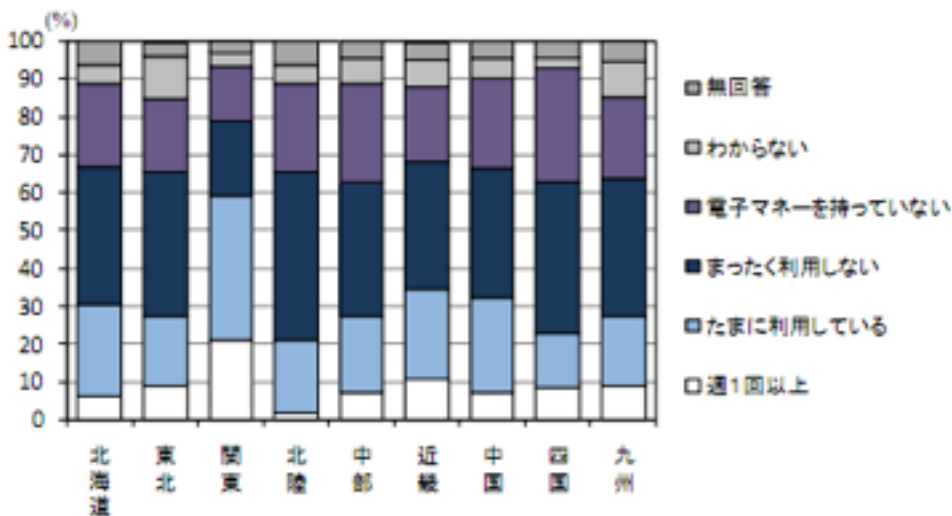


<p>図表1 電子マネーの発行枚数・端末台数</p>	<p>2010年の電子マネー発行枚数は前年比約20%の増加。2008年から2009年の増加が30%。一方、端末設置台数が急増。 → 駅ナカ、コンビニへの設置増に起因。</p>
<p>図表2 電子マネーの決済金額・件数</p>	<p>決済件数・金額共に高い伸びを見せている。 決済額：1,393億円 決済件数：1億7000万件</p>
<p>図表3 1件(枚)あたりの決済金額</p>	<p>08年9月までは700円台で推移していた1件あたりの決済額も、800円台に到達。 → 流通系電子マネーの普及が寄与していると考えられている。</p>

→ 順調に普及しているように見える電子マネー。

図表4 地域別利用状況



利用状況は関東に偏っていることが読み取れる。=大きな裾野

### 海外事例① PayPal

オークションサイトeBayが運営するオンライン決済システム。  
日本ではYahoo!ウォレットにあたる？

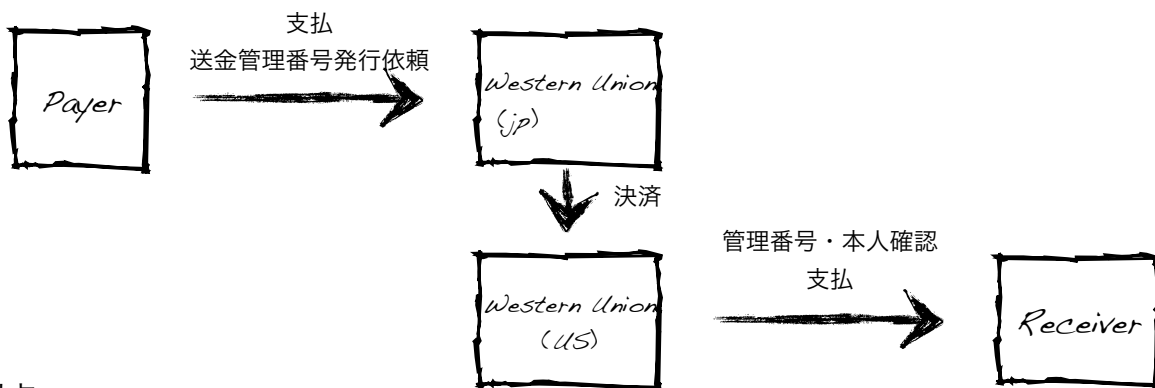


#### 利点

C2Cの決済において間に第三者が入ることによりセキュリティが担保される。  
→電子マネーでの個人間決済でもこの要素は必須となってくる。

### 海外事例② ウェスタンユニオン

リアル店舗・窓口を利用した国際送金事業者



#### 利点

1つの社内での決済で完結するためスピーディ  
→窓口での決済はデジタル・ディバイドが懸念される高齢者等のためにも必要か？

### Google Wallet

5月26日に発表したサービス。

近距離無線通信（NFC）技術を搭載するAndroid端末を利用した決済を可能に。  
将来的に、免許証やホテルのルームキー、コンサート・チケットなど各種のアイテムを  
Google Walletに追加できるようにしたい考えという。

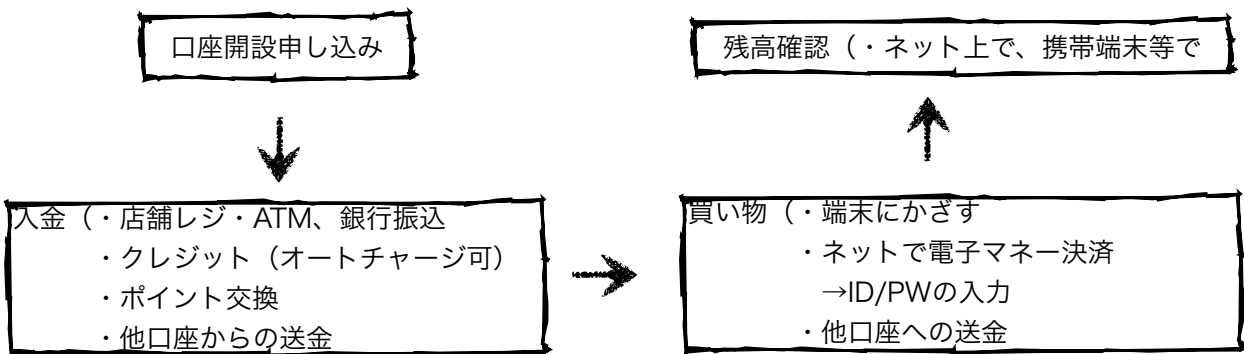


ではなく、



の時代？

伊藤亜紀氏の提唱する「電マネ口座」



利点

- チャージストレスがない
- クレジットのように借金をするわけではない
- デビット程、リスク管理に気を使わなくても良い (?)

考察

そもそもベクトルが違うためあまり参考にならなかった

<ぼくの電子マネー構想>

- ・「電子マネー用の口座」は無い。
- ・電子マネーのICカードが「財布」となる。
- ・ATMから現金を引き出す要領でICカードへのチャージを行う。
- ・カードの発行には身分証明が必要→カードのPWの設定を行う。
- ・PWの設定により、カードの個別IDとの認証を行い、ネットでの決済が可能になる。
- ・Felicaリーダーにより、残高の確認が可能。→もしくは、Google Walletのように携帯電話との連動を行い、端末上での残高確認が可能に。

↓Felicaリーダー



今後の予定

- ・諸外国の非接触型ICの電子マネーについて調べる
- ・方向性が定まらなくなってきたので、どうにかする

